

2011

Summer Semester

POLITICAL

SCIENCE 1

Final explanation for the examination

(Lecturer; Professor TAKAHASHI Naoki)



Presented by URAI Kyuzo

(Department of Letters 1)

ULTIMATE POLITICAL SCIENCE 1 FINAL EXPLANATION

Presented by *RDSK@Q.Urah*

Index of ULTIMATE POLITICAL SCIENCE 1

・Preface	1
・第1問傾向	2
・第1問対策	3
・第2問傾向	4
・第2問対策	4
・第1問対策用語解説	5

[A recent photograph of the author ?]



Preface

ここでは、政治1試験対策に特化した情報を記述します。高橋教授は第1問に用語・概念の説明問題(60点分)、第2問に政治学説に対する説明と意見を求める問題(40点分)を出題します。第2問は、出題・採点基準の予想が難しいこともあり、第1問でいかに得点するかが重要であります。

そこで、各大問の傾向及び対策を述べた上で、第1問に出題された又は出題されうるものについて、3行程度の解答例を掲載することとします。(ちなみに、教養学部の解答用紙はひたすら行が書いてあり、**224mm×7mm**の行が片面に**37本**あります)教官が老眼である(本人談)ことを考えると、**1行30~35字(少し大きめの文字)**が適当な分量と思われれます。

予め申し上げておきますが、この解答例は個人による解答例(しかも一部は上図のユータスくんのような状態で書いた)であるため、満点が取れるという裏付けはありません。(採点基準は存在のみが宣言され、その中身は非公表です)ここ

の通りに書いて **不可**とか **可**がきても、私は知りません。

ではでは、皆様のご健闘をお祈りします。

The chief editor *RDSK@Q.Urah*

— 何が「正しい」かなんてわからないけど

真っ直ぐな気持ちだけあればいい —

水樹奈々”POP MASTER”(作詞:水樹奈々;2011年)

ULTIMATE POLITICAL SCIENCE 1

(Copyright © *RDSK@Q.Urah* All rights reserved.)

本書の無断転載・無断複製は認める。

◎第1問傾向
<Table:1>
過去の出題

出題回数	用語・概念	年度
5	多元的国家論(pluralism)	01,03,06,08,10
4	政治的企業家(political entrepreneur) 投票者のパラドックス(voter's paradox)	00,04,05,09 02,04,07,09
3	階級意識(class consciousness) 自己決定的人間 囚人のディレンマ(prisoner's dilemma)	03,06,08 02,05,09 04,05,09
2	P=p{d{r *今年度取り扱いナシ scope S→D→P *今年度取り扱いナシ 階級闘争 劇化型性格タイプ 権威(authority) 熟慮(討議)民主主義 政治文化(political culture) 正統性(legitimacy) 超自我*今年度取り扱いナシ パレート最適(Pareto optimum) 弱虫ゲーム(chicken game)	01,08 02,07 03,05 02,05 07,09 00,04 06,10 00,10 07,08 04,09 01,06 03,06
1	E→P→R 図式 *今年度取り扱いナシ G=A=I *今年度取り扱いナシ 安定→抗議→社会変革 *今年度取り扱いナシ 機能的(关系的)権力観 経路依存性(path-dependency) コーポラティズム(corporatism) *今年度取り扱いナシ 自我防衛(ego defense)*今年度取り扱いナシ 政治システムへの重圧(stress)*今年度取り扱いナシ 政治システムへの入力機能(input function) 政治資源(political resource) 潜在的影響力(potential influence) 相互変容型リーダーシップ(transforming leadership) 提唱(主張)集団(advocacy group) 無関係対象からの独立性 フィードバック(feedback)*今年度取り扱いナシ 副産物(by-products)*今年度取り扱いナシ フリー・ライダー(free rider) ポリアーキー(polyarchy)*今年度取り扱いナシ 利益表現(利益表出)(interest articulation)	02 02 00 07 03 03 00 05 06 01 08 07 10 10 01 00 08 04 01

<Table:1>に示される通り、重複出題が極めて多いです。つまり、過去問にある用語を確認するのが最速かつ最良の対策です（高橋氏自身もそう語っていました）。用語確認は私のシケプリ”ULTIMATE 政治 1”などを用いて各自行って下さい。なお、先生本人に尋ねたところ、教養学部の解答用紙で3行ほどの記述を期待しているそうです。

◎第1問対策

では、番号別に対策を考えましょう。

・0番台

従来出題はありませんが、第1問に出そうと思えば出せるような語句もあるので、一応の理解はしておいた方がよいでしょう。（授業を2コマくらい使った上、打ち込むのも面倒だったので、作者としては読んで欲しいであります）

・100番台

120番台中心に頻出箇所です。前年との変更点は **scope** の訳語が「範囲」から「視野」に変化したことと **game theory** の復活が挙げられます。

また、**authority** や **legitimacy** なども出題間隔から見て、出てもおかしくありません。さらに、出題3回の **自己決定的人間観** にも注意が必要です。他の語句についても、話の流れや理解を深めるために一読を推奨します。

・200番台

今年度は大幅に削減されたため、**超自我・p{d}r** の出題可能性が消滅しました。

・300番台

特記事項はありません。過去出題語句(ex. **多元的国家論**)中心に、プリントを読めば十分です。但し、**2年連続で第2問が出題中**<私見ですが、**Burns** か **Mill** が出そう…>なので、油断は禁物です。また、330番台が復活しました。ここで、**劇化型性格タイプ**が補足されたことに気をつけましょう（誰のせいかは気にしない）。

・400番台

今年度は増強するはずでしたが、何も変わりませんでした。しかし、先生は「**試験問題を印刷に出したから420番をやる**」と仰いました。ULTIMATE 政治1の該当箇所を、用語は限定せずに、熟読しておくことを強く推奨します。

・500番台

出題歴はありません。まあ、教授のぼやきなので適度に聞いておけばよいでしょう。（試験には役に立たないものの、内容自体はますます面白いので）

とりあえず、**政治1はこの部分でいかに得点するかで勝敗が決まります**。たかが用語となめてかからずに、誠心誠意対応しましょう。

もし、直前60分になって試験の存在を思い出し、慌てたときは、上記のことを考慮し、焦らずに **120番と310番、420番**に山をかけましょう。

◎第2問傾向

第2問の出題形式は以下の3通りです。

①「政治とは～である」と述べた政治学者がいた… のパターン

(1) ということか解釈、具体化し→(2) それに対する意見を述べる

②～の「……」の理論について[～は講義で扱った具体的人名]… のパターン

(1)～の意見に即して「……」の内容を説明し→(2) それに対する意見を述べる

③日本の政治的出来事について… のパターン

③のパターンは2002年のみ出題され、**特殊性が強い**のですが、**今年に限り、leadershipの理論と繋げることは出来ないこともないので、用心して下さい。**

①のパターンは2000、2003、2005～2008年にかけて出題されました。

②のパターンは2001、2004、2009、2010年に出題されました。

(1)の存在から分かる通り、単に好き勝手絶頂に書くのではなく、正確な知識と論理展開が要求された問題であります。

◎第2問対策

①、②ともに、授業で扱った理論を踏まえた解答が求められているかと思えます。特に、②の場合(1)は授業で触れられた思想家の論理展開を理解していないと手も足も出ません。(また、(2)についても(1)が白紙で採点されるかどうか疑問が残ります)あと、(2)の段階では行数指定がないので、解答用紙の余っている部分を埋め尽くす勢いで書いてもよいと思われれます。

こちらは(Millが3回出ているものの)重複も少なく、山を張るのは困難です。”ULTIMATE 政治1”を一通り読み、流れを整理した上で、自らの意見も併せ持つというのが、余りに一般的すぎる忠告ですが、こちらから申し上げられる対策であります。

…と書いていたのですが、第11回目の講義で先生は第2問に「～を引照しながら…」という文言を入れたと仰いました。従って、**今年の第2問は②のパターンが出ます。**私の予想では **Burns** が来ます。まあ、transforming leadership と deliberative democracy は繋げやすいので **Mill** もやっておくと良いでしょう。(Millは出てもおかしくはない訳ですし…)

子曰わく、
学びて時に之を習う。
亦説ばしからずや。
(『論語』学而第一)



ULTIMATE 77 政治1第1問対策用語集—虎の巻—

最後に第一問用として、過去出題されたもの及び今後出題されうるものを77個厳選して3行(90~105字)にまとめることにしました(ちなみに、昨年度のシケプリに「字数が余る」との旨の記述がありますが、出題語句について言えば嘘です。書くことを書けば足りなくらいです)。出題歴アリの語を中心に確認して下さい。「彼れを知りて己を知れば、百戦して殆うからず」と孫子も言っています。(わざわざ出題用語にはシケプリと同じ色をつけておきました)

世の中変人模範的東大生もいらっしゃるでしょうから、範囲外の語句も過去に出たものは扱いました。(え、何で私がそんなもんを書いてるかって?そりゃ知識人の責務ってヤツですよ。~~あなたとは違うんです~~)

最初にも言いましたが、これが正しいとは限りません。執筆には全力を尽くしましたが、不足事項や不慮の誤り等があるかもしれません。博雅のご教正を期待する次第でございます。なお、用語は一部を除き講義順に並べました。また、用語右隣の[]内は”ULTIMATE 政治1”の対応ページを表します。なお、ご意見・ご質問はメールで、karmel_shiketai@yahoo.co.jp までお願いします。

では、ULTIMATE 77 始まります。

第1問 以下の(1)~(77)の語句を簡潔に説明しなさい。(10点×77)

(1) 政治学的思考法[p 3]

指導者が権力による強制やリーダーシップによる合意要請を行い、人々を協働に向かわせることと対立を調整することにより、共生を実現し、人がより良い生活環境を得られるようにする手法を考えるものである。(97字)

(2) 政治学の歴史的三類型[p 3]

古代には規範的政治学としての性質の強い政治哲学が、中世末以降は実践的政治学の要素の強い政治イデオロギーが、第二次大戦後には経験的政治学としての性質の強い現代政治学が主流となり、複線的に展開した。(97字)

(3) 現代政治学(political science) [p 4]

価値中立性を目指すための事実と規範の分離、多様な政治現象の観察による法則の帰納的・経験的考証、一般人の対象化を図り多様な学問の観点から考察する学際性、に特徴がある第二次大戦後に確立した政治学である。(99字)

(4) 行動論革命(behavioral revolution) [p 4]

旧来の政治学が価値・制度の問題を重視したのに対し、一般人の思考や行動を対象とする政治学を目指し、多様な人間活動の観察に基づく経験的・帰納的考察に力点を置こうとした、政治学の変革運動である。(94字)

- (5) **ポスト行動論革命(post behavioral revolution) [p 5]**
行動論革命を踏まえて生じた、人間の自由意志と制度の関係の考え方を巡る論争である。保守派は合理的制度論に基づき規制緩和による人間活動促進を唱えたが、進歩派は歴史的制度論に基づき制度の背景を重視した。(98 字)
- (6) **$D=f(ir)$ [p 5]**
 D は意志決定を、 f は関数記号を、 ir は利益関心を表す。ある行為主体は、各々の合理的利益関心に従い行動・意志決定する、という意志決定と利益関心の関係性を、関数として定式化した表記である。(91 字)
- (7) **利益関心(interest) [p 6]**
ある行為主体が特定の目的を思慮分別に基づいて設定し最短経路での達成を図る際の合理性に基づく、「具体的な得が出る」物事、又は「具体的な得が出るとは限らないが注意や関心を引きつける」物事を表す用語である。(100 字)
- (8) **自己決定的人間[p 6]**
人間は神の下位に位置するものだが、神から独立した存在であるため、失敗を反省し過ちを正すに足る理性をもつため、個々の独立した判断で自己決定し自己責任をもつ、というジョン・ロックが提唱した人間観である。(99 字)
- (9) **影響力(influence) [p 8]**
ある行為主体と他者との相互関係に基づいて働く、他者の行動・意志決定または内面の感情・心的方向性を変えさせる作用であり、その作用は有無の二者択一の形ではなく、折衷案など多様な形で現れる。(92 字)
- (10) **$D=f(ir,if)$ [p 8]**
 D は意志決定を、 ir は利益関心を、 if は影響力を表す。ある行為主体は各々の合理的利益関心と行為主体間に働く影響力に基づき意志決定する、という意志決定と影響力・利益関心の関係性を、定式化した表記である。(98 字)
- (11) **視野(scope) [p 8]**
視野は、ある行為主体がどの分野に対してその影響力を及ぼすかということを表す概念であり、また、ある分野における視野が、他分野での視野として意図的に転用されやすいという性質を有している。(91 字)
- (12) **政治資源(political resource) [p 9]**
投獄・処刑などの物理的圧力や金銭、人気・支持率、愛情といった、ある行為主体が他の行為主体に対して影響力を行使し、行動や意志決定のあり方を変えさせる際に用いることができる手段である。(90 字)
- (13) **強度(strength) [p 9]**
ある行為主体が、他の行為主体に対し、どの程度までその主体が好まざることを行わせられるか、ということを表す概念であり、その主体が嫌う内容を行わせられるほど影響力の強度が大きいと言える。(91 字)

(14) 潜在的影響力(potential influence) [p 9]

一定の政治資源を有している行為主体の、行使しようと思えば任意に行使できるが、現在は用いられていないために表面化していない影響力のことであり、顕在的影響力の対をなす影響力概念である。(90 字)

(15) 権力(power) [p 9]

ある行為主体が影響力を受け、それに従わない際、その行為主体に価値剥奪を及ぼし、財産や生命を奪いうる影響力のことである。国家や企業経営者など、他者への影響力が大きい機関及び個人がこれを有する。(95 字)

(16) 権威(authority) [p 10]

支配者が被支配者に対して影響力を行使した際に、被支配者が納得してそれに従うような影響力のことであり、支配者の血統や法体系・カリスマ性などに基づく正統性にその存在は裏打ちされている。(90 字)

(17) 正統性(legitimacy) [p 10]

「正義」を具現するものであるとは限らないが、ある行為主体による強制を、他者に完全に納得させるに足る心理的・論理的根拠のことであり、権威・権力の存在を確固たるものにする性質を有する。(90 字)

(18) 実体的権力観[p 11]

近代における力学の発展等を通し、力の概念が重視され、権力も具体的かつ特別な支配力と見なされて生じた、権力には実力や血縁、富など特定の源泉・基盤が存在し、生まれつき保有されるものでないとした概念である。(100 字)

(19) 機能的権力観[p 12]

権力は実体的存在でなく、権力を行使する者・される者という行為主体の相互関係において働くとする、機能主義に基づく権力概念であり、大衆主義と結合することにより影響力の理論が形成された。(90 字)

(20) 構造的権力観[p 12]

機能主義と大衆主義に基づいて成立した影響力の概念に対し、政体や人権への、重大で効力の大きい力をもつ者は少数者に限られているから、影響力の理論は均衡理論で現実肯定にすぎないと批判した概念である。(96 字)

(21) パワー・エリート(power elite) [p 12]

第二次大戦後アメリカ合衆国が繁栄し、アメリカン・ドリームを謳歌する中、アメリカ社会は官僚・軍・財界の上層部に権力が掌握されていると唱え、アメリカ社会の平等性を否定した、ミルズによる議論である。(96 字)

(22) 相互作用論[p 12]

ある行為主体が他の行為主体に影響力を作用させた場合、反作用も生じるはずだから作用・反作用は組で考察すべきであり、作用のみに着目する影響力の概念は機能主義として不十分であると批判した議論である。(96 字)

(23) $D=f(ir,st)$ [p 13]

D は意志決定を、ir は利益関心を、st は状況を表す。ある行為主体は各々の合理的利益関心と行為主体間に存在する状況に基づき意志決定する、という意志決定と利益関心・状況の関係性を、定式化した表記である。(97 字)

(24) 優越戦略(dominant strategy) [p 14]

ゲーム理論において、非協力ゲームの思考に基づき、主体がある選択を採った際に最大の損をする場合を考察した上で、そのときの損害が大きくなならないような選択を採るのが合理的だとする戦略である。(92 字)

(25) 弱虫ゲーム(chicken game) [p 15]

あるプレイヤーが合理性に基づいて優越戦略をとれば、利得が必ず負の値をとり、利得を正の値にするためには、そのプレイヤーは非合理的選択を迫られるような設定の、非一定和ゲームのことである。(91 字)

(26) 囚人のディレンマ(prisoner's dilemma) [p 15,16]

ゲームが協力ゲームであるか非協力ゲームであるか判断できない状況の下では、主体間に協力関係があるか否かが不明なので、自らの採るべき選択が個人と集団のどちらの合理性に基づくか困惑するという概念である。(98 字)

(27) コア(core) [p 17]

ある戦略または複数戦略の組み合わせから生成され、他の連合によって優越されることのない、という 2 つの条件を同時にみたすような利得の組であり、これが存在するとき、ゲームの唯一解が得られる。(92 字)

(28) 超自我(superego) [p 19]<2011 年度は試験範囲外>

自我の一部が自我から独立して形成される、社会の倫理的基準が内面化されたものであり、良心の呵責のような批判的機能と理想的な自己を規定する自我理想の 2 作用をもつ、フロイトが提唱した概念である。(94 字)

(29) 政治人(political man)

人間の政治的側面に着目した場合において、富や絆などの他のあらゆる価値よりも権力という価値を重視し、権力獲得には他の価値を犠牲にすることを厭わない類の人物一般を指し、強迫型・劇化型・冷徹型の 3 種がある。(100 字)

(30) $p\}d\}r\}$ [p 22]<2011 年度は試験範囲外> [p 21]

p は個人的動機、d は置き換え、r は合理化、} は変換記号を表す。幼少時の家庭環境から生じる個人的動機が、公的動機に変換され合理化されることで政治的人間が形成されるという、ラスウェルが提唱した理論である。(100 字)

(31) 劇化型性格タイプ[p 23]

内部で波乱を孕む家庭環境で育った者に主に見られる性格型である。人の感情の動き・場の空気を読み取ることに長け、人に気に入られようとし、新たなことを好む、視野が広い性格であるため、扇動家に適する。(96 字)

(32) $E \rightarrow P \rightarrow R$ 図式[p 25] <2011 年度は試験範囲外>

E は行為主体の置かれた環境を、P は行為主体の素質を、R は政治的反応を表す。環境が主体の意識的志向に作用し、その結果主体の政治的素質を定めることとなるため、個人の政治的反応が形成されるという図式である。(100 字)

(33) 集団の条件[p 27]

第一に各人が共通の目標・関心を有すること、第二に集団内における地位と役割が分化し明確になっていること、第三に集団の構成員が「我々意識」を有していること、の 3 点が集団としてみたされるべき条件である。(98 字)

(34) 社会有機体説[p 27、28]

全ての人間は別個の役割・身分を持ち平等ではないが、社会は各身分が存在し、それらが有機的に結合して初めて成立できる、とする議論であり、中世社会における身分制を正当化する概念として用いられた。(94 字)

(35) 絶対主義国家[p 28]

圧倒的に強い実力を用いて地域共同体やギルドといった社団を抑圧し封建遺制を廃止することと、宗教と結合して正統性を確保することで、国王への集権化を進めた国家であり、家産国家としての性質を帯びやすい。(97 字)

(36) 一元的国家論[p 29]

国家には加入脱退の自由がないこと、死刑執行などの実力行使が可能であること、そして国家が永久的であることといった要素を論拠に展開する、国家は最上位の集団であり権力を独占すると考える理論である。(95 字)

(37) 多元的国家論(pluralism) [p 29]

集団間の関係を調節する点での国家の他の集団に対する優位性は認めるが、国家は特別な集団でなく、他の社会集団と並列する社会集団の一つにすぎず、権力も分散しているとする、アルトジウスに源泉をもつ理論である。(100 字)

(38) 階級利害(class interest) [p 30]

それぞれの階級に共通する状況から生じる要求・利害のことであり、支配階級と被支配階級の利害は対立関係にあるという性質をもつため、階級意識や階級闘争を考察する際の基礎となる概念である。(90 字)

(39) 階級意識(class consciousness) [p 30]

マルクス主義において、被支配階級が学習を通じ、共通の要求や利害に基づく、支配階級との間に存在する階級利害を理性的に認識するようになり、その結果同一階級内で発生する連帯感のことである。(91 字)

(40) $G=f(Ir, Cs)$ [p 31]

G は集団則ち階級を、Ir は利益関心を、Cs は階級意識を表す。ある行為主体はその利益関心と理性的な階級利害の認識により階級意識を生み、階級を形成する、という階級と意識・利益関心の関係を定式化した表記である。(100 字)

(41) 功利主義(utilitarianism) [p 31]

人間は快樂があり苦痛がない状態を幸福としそれを増大させようとするため、最大多数の最大幸福が実現されることにより社会の幸福の総和が最大となる状態が理想だとする、ベンサムが提唱した思考法である。(95 字)

(42) 熟慮(討議)民主主義(deliberative democracy) [p 32]

集まり全体で積極的に議論を重ねると、全体の利益を考える人々に他の人間も教育されるため、個人の利益を尊重しつつ全体の利益に適う選択が多数決で選ばれるとする、民主主義での討議・政治参加の重要性を説く概念である。(103 字)

(43) 古典的自由主義(traditional liberalism) [p 33]

18 世紀後半から 20 世紀初頭における自由主義の形態で、自由放任を原則とする。政治思想としては、自身や他者の意見・行動が尊重され受容されるようにした点と、個人の権利が尊重されるようにした点に意義がある。(99 字)

(44) 単純多数制[p 34]

考察を容易にするため、選択肢を 2 つずつ取り出して比較し、選好の順序を定めるといふ、コンドルセが提唱した決定方式であるが、選好の順序のみが着目され、個人の選好の強度が反映されない点に問題がある。(96 字)

(45) 領域無制約性(unlimited domain) [p 35]

選択にあたり、個人は全ての選択肢に対し、周囲の選択や他者からの圧力に影響されることなく、どのような選好の順序を示してもよいとする原則であり、自由主義を成り立たせる条件の一つである。(90 字)

(46) パレート最適(Pareto optimum) [p 36]

集合的選択は、集合体を構成する各人の選択を可能な限り尊重しそれに従うべきだという原則の実現状態、則ち誰かの効用を犠牲にしなければ他者の効用を高められない状態を指し、民主主義を成立させる条件の一つである。(101 字)

(47) 無関係対象からの独立性(independence of infeasible alternatives) [p 36]

選択にあたり、多数の選択肢の中から選択肢を限定し、無関係対象を形成して考えても選好の順序には影響しないから、考察易化を目的として分析的理性に則り、選択肢を絞って考察できる、という条件である。(95 字)

(48) アローの 6 条件[p 35,36]

連結律、推移律、領域無制約性、パレート最適、無関係対象からの独立性、非独裁性という、選択における 6 つの条件のことであり、これら全てを満たせないような状況の考察により一般不可能性定理が導出される。(97 字)

(49) 投票者のパラドックス(voter's paradox) [p 37]

コンドルセ式、ボルダ式の選択で全ての選択が否決され、持ち点方式でも選択の信憑性が低く、かつアローの 6 条件がみたされず、合理的決定は不可能だという一般不可能性定理が符合し、経路依存性が発動する状況である。(101 字)

(50) 経路依存性(path-dependency) [p 39]

投票者のパラドックスが生じる状況下では選択肢を採決する順番・議事運営により任意の投票結果も得られることや、前例に盲従することなど、道理や討議ではなく物事の道筋自体が選択を決定してしまうことを表す。(98 字)

(51) 集合財(collective goods) [p 40]

空気や道路など、集団の中のある個人が消費しているときに、その集団に属するどの個人も消費できるようなモノ、則ち消費の排除不可能性・消費の非競合性をもつことに特徴があるモノのことである。(91 字)

(52) フリーライダー(free rider) [p 40]

大規模集団における集合財入手に際し、個人の犠牲の不確実性と行動の不可視性から合理的に考え、犠牲を払わずに集合財を得ようとする者のことで、これが大量発生すると集合財を入手出来ないという問題がある。(97 字)

(53) 政治的企業家(political entrepreneur) [p 41]

個人の合理性を超越して集合体全体の合理性を考慮し、人々に集合財入手のための犠牲を払うよう呼びかけ、その犠牲を実行する人のことであり、オルソンはこれをフリー・ライダー出現の対策として提唱した。(95 字)

(54) 個人主義(individualism) [p 41]

個人を前提とし、個人を寄せ集めた集合体を見る概念で、長所は集団への個人の権利・自由を唱え全体主義を抑えることが、短所は各人が勝手に行動し決定が不可能なことと、人間の相互作用への視点を欠くことがある。(99 字)

(55) 提唱(主張)集団(advocacy group) [p 42]

自らの利益を追求する利益集団・圧力集団と異なり、自らの利益関心と直接関与しないことにも、自身の理念に従い積極的に参加する人々の集団を表し、政治参加する集団の形としては新しい形のものである。(94 字)

(56) $G=A=I$ <2011 年度は試験範囲外>[p 42]

G は特定の政策目標の実現を図る集団、A はその実現のための活動、I は利益関心を表す。ベントリーが主張した、集団とは活動であり、その活動とは集団の利益関心を実現するためのだという理論である。(93 字)

(57) $S \rightarrow D \rightarrow P$ <2011 年度は試験範囲外>[p 44]

S は制度化され安定した集団、D は状況の変化に伴う混乱、P は変化に対応した新集団としての既存体制への抗議を表す。安定していた状況が変化すると混乱し、既存の体制への抗議が生ずる、という理論である。(96 字)

(58) 安定→抗議→社会変革<2011 年度は試験範囲外>[p 45]

状況の変化に伴う大きな混乱がなくとも、安定状態が矛盾や不満を抱えている場合に、その不安定要素に対し抗議が発生し、安定状態に潜む矛盾・不満の解消に向け社会変革が起こるという理論である。(91 字)

- (59) コーポラティズム<2011年度は試験範囲外>[p 46,47]
元々は人が団体として行動することを意味し、アメリカ合衆国以外の地域では人は固定的な組織の中で暮らしているとする理論である。現代では、南米やヨーロッパでネオ・コーポラティズムとして発現している。(96字)
- (60) $G=f(Ir,Pr)$ [p 49]
Gは指導者とそれに従う者からなる集団、Irは利益関心、Prは目標を表す。集団は共通の利益関心及び目標を有する指導者と追従者から成り立つ、という集団形成と目標・利益関心の関係を定式化した表記である。(96字)
- (61) 相互取引型リーダーシップ(transactional leadership) [p 50]
指導者は、それに従う者と価値交換を行うことで、動機を引き出し、共通目標に向かうことが求められ、両者の関係は目標が一致している間のみ短期的なものである、とするバーンズのリーダーシップ論である。(96字)
- (62) 相互変容型リーダーシップ(transforming leadership) [p 50]
指導者は、追従者の潜在的な要求を認識するのに加え、潜在的動機を対話を通して引き出し、共通目標に向かうことが必要で、両者の関係は相互に励まし高め合う継続的なものだとするバーンズのリーダーシップ論である。(105字)
- (63) 階級闘争(class conflict) [p 53]
マルクスにより提唱された、階級社会において、特権を独占する支配階級から、被支配階級がそれを奪還し自らのものに帰そうとして生じる闘争であり、彼によれば、不断の階級闘争は社会を形成する要因となる。(96字)
- (64) 副産物(by-product)<2011年度は試験範囲外>[p 55]
システムの思考において、物事は複雑な産出関係の連関として把握できるとした場合に、副産物は、生産者がその産出関係の中で生産物を生成する過程で、同時に多様な形で生み出されるものである。(90字)
- (65) フィードバック(feedback)<2011年度は試験範囲外>[p 57]
要求や支持がシステムに入力され、決定や行動が出力された結果、システムは環境に影響する。その際、影響を受けた環境はそのシステムに新たな影響を及ぼすが、この還元をフィードバックという。(91字)
- (66) 政治システムへの重圧(stress)<2011年度は試験範囲外>[p 57]
戦争や革命の勃発、周辺環境の激変、要求に応えるための能力・意思の欠如、処理不可能な要求の入力による過負荷といったことに起因する、システム外部から与えられる、システムに対する障害である。(92字)
- (67) 構造=機能論(structual-functionalism) [p 61]
歴史的展開の中で変化し、場所によっても異なる要素自体のみに着目するのではなく、比較的安定し、どこにでも存在する要素間相互の関係にも着目することで、実態が把握できる、としたアーモンドが唱えた理論である。(99字)

(68) 政治システム(political system) [p 61]

イーストンによれば政治行動から成り立つ集合体で、アーモンドによれば政治文化と政治構造から成り立つものだとされる、一つまたは複数の入力を受け入れ、それに応じて出力を発生させる仕組みである。(93 字)

(69) 政治構造(political structure) [p 61]

どの時代・地域においても、概ね不変であり共通している、政治システムを構成する観察可能な政治的行動全般、則ち相互に関連する役割の集合体を表す、アーモンドによって提唱された概念である。(90 字)

(70) 政治文化(political culture) [p 62]

アーモンドによれば、政治態度、政治信念、政治価値、政治手段に代表される、役割行動の背後にある、各社会に独特な心理的性質を表す概念で、これにより政治システムの差異が生じるが、乱用されやすいという問題がある。(102 字)

(71) 政治システムへの入力機能(input function) [p 63]

政治的社会化とリクルートメントによる政治構造・政治文化の習得、利益表現による要求の発生、利益集約による要求の具体的政策への転化、の 3 点に基づき、政治システムへの要求を送り込む作用である。(93 字)

(72) 利益表現(利益表出)(interest articulation) [p 64]

物理的手段・暴力、個人のコネクション、エリート代表、制度的・公的チャネルを通し、個人や集団が政治的意思決定を担う人々・団体に対して発する様々な要求のことであり、基本的には利益集団により表される。(97 字)

(73) 利益集約(interest aggregation) [p 64]

利益関心のやりとりによる実利=取引スタイル、価値観による絶対価値思考スタイル、前例による伝統的スタイルに基づき、政治に関する様々な意見・要求を具体的政策にまとめ上げる機能で、議会や官僚機構により行われる。(102 字)

(74) 政治システムからの出力機能(output function) [p 64,65]

議会・官僚機構による規則制定機能、司法・官僚機構による規則適用機能、司法による規則判定機能、の 3 つの方法に基づき、要求の入力を受けた政治システムから行動・決定を引き出す作用である。(90 字)

(75) 政治システムの通信機能(communication function) [p 65]

政治システムへの入力機能と政治システムからの出力機能を異なる観点から考察し、それらを結合することで、政治システムの入力から出力までを実効的なものとする、入力機能・出力機能と別個に存在する作用である。(99 字)

(76) 残余類型(residual category) [p 65]

類型化し得ないものの余りの部分という類型で、政治システム論においては政治文化がこれに当てはまるが、「残余」であるにもかかわらず説明の中核を担うことで、議論が乱暴になるという問題がある。(92 字)

(77) ポリアーキー(polyarchy) <2011 年度は試験範囲外>[p 67,68]

実在する制度としてのデモクラシーという、デモクラシーの具体的側面に着目した、ダールにより唱えられた概念であり、自由化が進み公的異議申し立てが実現され、かつ包括度も拡大し参政権が普及した状態を表す。(98 字)

以上です。お疲れ様でした。

何かありましたら遠慮なくご連絡下さい。



—俺、試験終わったらかき氷食べに行くんだ…—